

こんぺいとう 第七号

愛知県立常滑高等学校

私たち常滑高校文芸部は、毎週月曜日と水曜日の週二日、小説、詩、短歌、俳句、川柳など、様々なジャンルの創作活動を行っています。今年は部員も十二名に増え、校内外での吟行を行いました。また、去年に引き続き、講師の先生を学校にお呼びしての俳句講習会、高文連のアートフェスタ、詩の講習会に参加し、昨年よりもたくさんの活動を行ってきました。今年の部誌は「自然」をテーマに、活動して創作した作品と前号好評だった特集も編集係を新たに製作しました。そして、今年は初めて製本作業者に依頼し、完成度の高い部誌を作ることができたと思います。今後も毎年新たなことにチャレンジし、より魅力的な作品が載った部誌にしていきたいと思っています。

(二年 須藤 葵)



『文學帖』 第八号

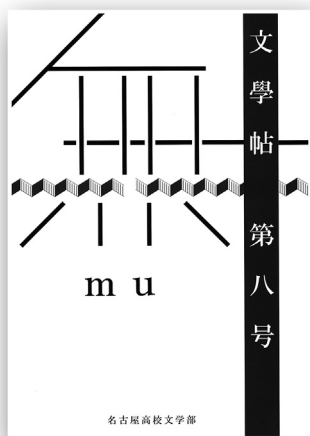
名古屋高等学校

名古屋高校文学部が誇る文芸部誌『文學帖』。その第八号は、三つの「読み込め」で構成されています。「無」をテーマにした小説の競演・新入部員の小説を、高三の部員がリライトし、その改善の是非を小説家に聞く「文学クリニック」、旧街道である美濃路のフィールドワークと吟行、そして、俳句甲子園の優勝の舞台裏の三つです。『文學帖』ならではの内容を目指しました。

『文學帖』の伝統は、「手にとってもらえる本作り」にもあります。その意味では、今年の表紙は、例年以上にスタイリッシュなものに仕上がりました。直線を使い、黒と青と白だけで「無」を表現した表紙になり、視界に入ったら思わず手に取ってしまいそうな、オシャレな見た目にしました。読者の読み易さにも気を配り、行間や文字の大きさ、フォントの変更などの手間をかけました。

是非とも私たち名古屋高校の部誌を手にとってみて下さい。

(一年 樋脇 晃祐)



イナカプレス

愛知県立成章高等学校

成章高等学校新聞文芸部では年に一回、「成章祭」と呼ばれる九月の文化祭行事に部誌「イナカプレス」を発行し、生徒及び一般の方へ配布しています。

今年「イナカプレス」を持って旅に出よう！」をコンセプトにしました。ガイドブックのように気軽に持ち運んでもらえるサイズにして、部員全員で地元田原や豊橋をテーマにした小説に挑戦してみました。

私たち新聞文芸部では、小説をはじめ、短歌、俳句、装画などの作品を日々作っています。その作品はイナカプレスなどの部誌を通じて、校内の生徒や一般の方に読んでいただけるようにしています。今年部員が六人増え、大変にぎやかになりました。これからも、よりよい作品にできるよう、頑張っていきたいと思えます。

(二年 齊藤 遼)



ユニコーン

愛知県立安城高等学校

ユニコーンは、私たち安城高校の文芸誌です。創刊は、一九八六年（昭和六十一年）で、今年で三十一年を迎えます。年六回の発行で、文化祭の時には、創刊号から全てのユニコーンを展示し、卒業生の先輩たちにもみてもらっています。

日頃は、小説・詩・短歌・俳句・イラストと自分の好きな分野で挑戦していますが、今年の文化祭号（一六三号）は、「平和を考える」をテーマに作りました。第一部は、中日新聞主催の「平和の俳句」（二面と月間優秀作）に掲載された俳句をとりあげ、俳句エッセーの形でまとめました。また、第二部では戦争に関する小説を読んで、平和についての部員の考えをまとめています。

(二年 西野 奈美)



青雲

愛知県立岡崎北高等学校

岡崎北高校文芸部は、年四回発行される「十六夜」と、文化祭で販売される「青雲」の二種類の部誌を作成しています。

部員は総勢五名と少ないながらも各々が自分自身の価値観をもち、ミステリーやSFなどさまざまなジャンルの作品を作り出しています。また、部誌の作成前と後に批評会を開き、それぞれの作品について話し合い、お互いに向上心をもってよりたかみを目指しています。

これからも人々を引き込むような作品を作っていきたいと思っています。

(二年 壁谷 亜朱)



卵と雛の突然変異

愛知県立国府高等学校

国府高校文芸部は、文化祭で発表している部誌と、春に発行する部誌の年二回の部誌発行をしています。更に隔月発行の頒布用フリーペーパー発行が主な活動です。三百字小説、リレー小説など、皆がそれぞれの書いたものを見せ合い、常に切磋琢磨しています。

私達の部誌『卵と雛の突然変異』はとても伝統があり。今回は47号目の発行となりました。表紙も全て自分たちのアイデアで描きました。また様々な全国的な文芸小説コンクールにも応募しています。今年度も文芸小説のコンクールで最優秀賞を受賞している部員もいます。部誌の製作は自分たちで考え、話し合いを重ねてテーマを考えました。推理、恋愛、ホラー小説など様々なジャンルを含んでいます。

(一年 深作 唯人)



文芸幸田

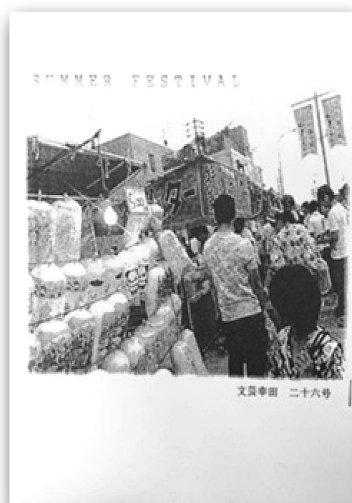
愛知県立幸田高等学校

幸田高校文芸部は毎年俳句甲子園全国大会出場に向けて俳句を中心に組み、その他のコンクール等にも応募しています。

今回の『文芸幸田二十六号』は、テーマ詠を行っています。テーマは「夏祭」です。祭りの情景が浮かぶ俳句・短歌・川柳を詠んでいます。また、小説や祭りについてのレポートもあります。

今年は俳句甲子園の全国大会に出場することができました。去年よりパワーアップした私たちの感性を楽しんでもらえるような作品になりました。

(二年 井原千恵理)



COSMOS

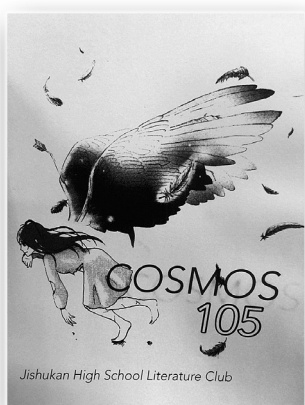
愛知県立時習館高等学校

時習館高校文学部では、毎年春と秋の二回、部員の創作の場として部誌『COSMOS』を発行しています。創刊から五十年を超えて受け継がれる、我が校伝統の文学部誌です。

春は印刷から紙組み、製本に至るまでの全ての作業を部員の手で行い、その年の新入生と卒業生に配布します。秋は、文化祭で生徒及び一般の方への配布を行うため、製本を業者の方にお願ひし、装丁の豪華なものを地域の方々にお届けしています。

今回の部誌は、一年生の部員が多いということもあり、最近のものよりも作品数の多いボリュームのある号となりました。

また、部誌を発行した後は、部員同士で批評会を開き、各自の作品について感想と共に、良かった点や改善点などについて話し合います。こうしてお互いの作品を読み、意見交換を行うことで、その反省を生かし、部員たちの意欲や技術を高めています。



時習館高校文学部では、伝統あるこの「COSMOS」の名を受け継ぎながら、これからも新しい挑戦とともに進化を続けたいと思います。

(二年 松井慶一郎)

マジカルスイーツ

愛知県立豊橋東高等学校

私たち豊橋東高校文学部は、年に自己紹介冊子、文化祭冊子、春冊子の三部を発行します。文化祭冊子と春冊子では、予め部員で話し合って設けたお題にそった創作活動を行います。今年の文化祭冊子では「魔法」と「お菓子」をお題として冊子制作をし、締め切りを守るべく、部員全員が真剣に制作に取り組みました。冊子は小説とイラストから構成されており、どの作品からも部員各々の世界観や個性を感じることが出来ます。文化祭では多くの方に部誌を手にとってもらえたのでとてもうれしく思っています。

活動日は週二日。兼部している部員がほとんどなので、なかなか顔を合わせられませんが、その日集まった部員たちで意見を交換し合ったり、執筆作業に励んだりしてより充実した活動が行えるよう努めています。部員数があまり多くないので、製本作業など大変なこともあります。



全員で協力しながら日々頑張っています。今後もたくさんの人に楽しんでいただけるような部誌を発行していきたいと思っています。
(二年 伊藤 有沙)

春部誌 prism

南山高等学校女子部

私たちは、週二回中学生と共に活動しています。お題をその場で決めて、即興で作品を書き、その後部員同士でアドバイスや良かった点などを伝える批評も行います。

また、秋と春の二回部誌を発行しています。秋部誌には二種類があります。少しくだけたイメージの「うつけもの」と長い歴史を誇る「黎明」です。どちらもテーマはありません。

一方、春部誌は毎年テーマを決めてそれに沿った小説や詩を書いています。ここ数年のテーマは「十二星座、天気、職業、初めの一文縛り……」でした。そして今年のテーマは「色」です。長い伝統をまもりつつ、個性豊かな部員達が「十人十色」の作品を書きました。

(一年 山内 果音)



つれづれ かがりび

愛知県立西尾高等学校

私たち西尾高校文芸部では、漫画班が制作する「つれづれ」と、小説班が制作する「かがりび」という部誌を新入生歓迎会、体験入学、文化祭、文化部発表会の年四回発行しています。これらの部誌には、部員の作品だけでなく投稿者の作品も掲載しています。

毎週木曜日に行う通常の部活動時には、ブレインストーミングによってアイデアを出し合います。決まったテーマを用いて次週までに作品を作り上げ、感想を積極的に伝え合うことで、作品のクオリティを上げるための意見交換の場としています。

部員数は六名で、漫画班に四名、小説班に二名と少ないですが、それぞれの個性を活かした作品を作り上げるため日々切磋琢磨しています。

読んでいただいた方に満足していただけるような部誌を製作できるように、これからも精進していきます。

(二年 倉田 滯)

